

第29回わらじで歩こう坂本龍馬脱藩の道

9月23日(土)「龍馬を語る夕べ」を河辺ふるさとの宿で開催しました。

第1幕では、講師に高知市の春野公麻呂先生をお迎えし、「脱藩の道の龍馬の無名伝承地」と題した講演会を行いました。講演では、龍馬の土佐の滞在所や伊予各地に残る脱藩伝承の謎について、実地踏査に基づいた説明があり、参加者は熱心にメモを取っていました。

第2幕では、龍馬ファンが龍馬談義で大いに盛り上がり、最後は「奔れ！龍馬」を参加者全員で歌い、翌日の完全踏破に向け気持ち



を一つにしました。

24日(日)には、「第29回わらじで歩こう坂本龍馬脱藩の道」が行われました。

河辺ふるさと公園で行われた出立式では、全国からの参加者24人を含む230人が集まりました。参加者代表が力強い完全踏破宣言を行い、龍馬役を先頭にスタートしました。

参加者は、Aコース(榎ヶ峠<えのきがとせ>、泉ヶ峠<いづみがたせ>)とBコース(河辺ふるさと公園、泉ヶ峠)の2コースに別れ、涼しい秋風が吹く中、約150年前に坂本龍馬が脱藩した河辺の道を、参加者それぞれが龍馬に思いを馳せながら、歩きました。

「愛媛FCマッチシティ」開催



9月24日(日)、ニンジニアスタジアムにて大洲市・四国中央市マッチシティによる愛媛FC対横浜FCのサッカーJ2リーグが開催されました。

試合に先立ち、JA愛媛たいきより記念品が贈呈され、選手入場の際には、エスコートキッズとして「喜多サッカースポーツ少年団」と「la.co nagahama スポーツ少年団」の選手が愛媛FCの選手と手をつないで入場しました。

試合は、多くのサポーターが熱い応援を送りましたが、惜しくも2対3で敗れました。



【選手入場】愛媛FC
写真中央は宇和島出身 DF3 玉林睦実 選手



試合前には、愛媛FC「西田剛」選手が大洲のいもたき500食を観客に振るまうおもてなしをしました。すぐに行列となり、開始30分で終了しました。



今年度、満100歳を迎える市内の長寿者19人を顕彰するため、9月25日(月)、清水市長と関係者が対象者の自宅や施設を訪問しました。

対象者のひとりである、肱南地区在住の直本千代子ちよこさんを訪問した清水市長は、「高齢者の元気な姿は、私たちの力になる。これからも長生きしてください」と話しました。

ご長寿おめでとーございます
平成29年度100歳訪問

88歳まで現役で酒屋を営み、自転車で配達していた直本さん。丈夫な身体をお持ちで、今でも自宅の階段を登り下りしています。政治のことも関心が高く、テレビのニュースは欠かさず見ているそうです。今は、近所のみなさんと話すことが、いちばんの楽しみだと笑顔で話していました。



安全で安心して暮らせる地域へ

9月19日(火)、たいき地区青色防犯パトロール隊の出発式が大洲警察署にて行われました。出発にあたり、三井純一じゅんいち大洲警察署長が、「えひめ国体、えひめ大会では、多くの警察官が警備に従事するため、期間中のパトロール活動の協力を改めてお願いしたい」とあいさつしました。

出発式後、約60台の青パト車両は、警察車両を先頭にそれぞれの地域へ出動しました。



海外での経験を生かすために

9月11日(月)、JICAジャイカボランティアとして2年間カメルーンに派遣されていた梶田真緒まおさんが、帰国報告のため市役所を訪れました。梶田さんは、カメルーンの小学校・幼稚園で環境教育の授業を行うなど環境に関する活動に取り組みました。

梶田さんは、「この2年間で得た経験を整理し、自分自身が発信者となって、ボランティア活動の良さを広めたい」と話しました。



鹿野川ダムトンネル洪水吐 内部入坑体験残りわずか

鹿野川ダムでは、大雨が降った時に今よりたくさん水をダムに貯めて下流の浸水被害を減らすために、トンネル洪水吐の工事を行っています。このトンネルは、直径11・5メートル、延長457メートルとびっくりするような大きさです。

この大きなトンネルの中に入ることができるとは、残りわずかとなりました。ぜひ一度、迫力あるトンネル内部を体験してみてください。



洪水吐トンネルの見学



監査廊の見学



オリジナルダムカード

また、鹿野川ダムの見学会も随時開催しています。ご希望の人は、問い合わせ先まで連絡をお願いします。

なお、見学いただいた人には、鹿野川ダム改造事業限定のオリジナルダムカードをプレゼントしています。

【見学・所要時間など】

平日 午前8時30分～午後5時
(土日・祝日は要相談)

ダム内部通路と洪水吐トンネルで約90分

※10人以上で申し込みください。
10人以下の場合は、他の団体に合わせての見学となります。

【問い合わせ先】

鹿野川ダム管理庁舎

☎ 2350

野鳥

ツメナガセキレイ
(爪長鶺鴒)
スズメ目 セキレイ科
全長 16.5cm



旅鳥として、刈り取りの終わった田んぼなどで観察されるセキレイの仲間です。常にお尻を上下に振ることや、色合いもキセキレイに似ています。大きな違いは、鳴き声が「ジジッ」と濁り、横に向かわず上に飛び上がって移動すること、またキセキレイに比べ尾羽が3分の2くらいの長さであることがあげられます。

日本で観察されている亜種（同じ種類でも住む所で体の色が異なる）は4種で、本種は北海道でも繁殖しています。健康志向でウォーキングされる人をよく見かけますが、何の変化もないような田んぼでも、双眼鏡一つあれば、命がけで生きている、生き物たちのいのちのつながりに感動します。

NPO法人かわうそ復活プロジェクト⑤

文化財

孔子木像
大洲市指定有形文化財
(彫刻)
大洲高等学校所有



この木像は、昭和14年（1939）、愛媛県立大洲中学校（現在の大洲高等学校）の敷地内に「至徳堂」が建立された際、大洲藩校「明倫堂」の塾頭であった高田忠次郎の子孫から寄贈されたものです。

像高43cm、肩幅17cmと小ぶりのこの木像は、もともと中江藤樹が安曇川で開いた私塾「藤樹書院」に祭られていていましたが、藤樹の門人で大洲藩士の清水季格が譲り受け、その後川田雄琴によって、延享4年（1747）に完成した藩校「止善書院明倫堂」に祭られ、藩が学問を推進していく上で象徴とされました。

資料は、大洲藩校「止善書院明倫堂」時代から受け継がれてきた数少ない遺物として、貴重な資料といえます。

(平成14年7月29日指定)

おおずの女性 ～輝いて今～

大洲市の交通安全を願って

9月21日(木)から開催された「秋の全国交通安全運動」に合わせ、9月22日(金)、大洲警察署前で、人の輪作戦が実施されました。その際に、大洲市連合婦人会長の上野マリエさんから大洲交通安全協会長に対し、寄付金が渡されました。

大洲市連合婦人会では、昭和42年から会員に対して「交通事故防止三悪追放運動」のための署名運動および協力募金活動を実施しています。これまで、集まった協力量金は、交通事故に遭った会員への見舞金として活用していましたが、近年、会員の事故防止に対す



る認識も深まり、会員の事故件数も減少したこと、今年度より、集まった募金の一部を、大洲市の交通事故防止、交通安全普及活動に有効活用してもらうため、大洲交通安全協会へ寄付金として贈呈することになりました。

寄付金の贈呈後、上野マリエさんは、「いまだ、大洲市においても、重大な事故が発生している。事故防止につながるよう、何か援助できれば」と思い寄付金を送ることにした。事故で悲しむ人がいなくなり、安心して暮らすことのできるまちになってほしい」と話しました。

大洲商工会議所青年部 大洲ご当地クイズ

大洲の11月と言えば、毎年11月2日に行われる、「八幡宮のお成り行列」ですね。300年以上の歴史を持つお成りは、3基のみこしと当時の時代衣装に身を包んだ約260人が参加します。御長柄組（長い柄のついたやり）の歩調は太鼓に合わせた独特の動きで「八八の供」と呼ばれ、行列の中で最高のものでされていました。平成28年からは、道楽も復活しました。悠久の時に思いをはせてみてはいかがでしょうか。

【10月号のクイズ解答・解説編】

大洲市の火として炬火イベントが開催。大洲市の火に名称が付きまして。それはどれでしょうか。



- ① 走れ今 水郷大洲 希望の火
- ② 水郷大洲 肱川に燃ゆる 希望の火
- ③ 肱川に映える 鵜飼火と希望の火

正解…①

解説…この素晴らしい名称を付けてくださったのは、肱川町在住の人だそうです。また、大洲北中学校、大洲東中学校の生徒さんも優秀賞を受賞しました。炬火リレーには、総勢88人が参加しました。四国八十八カ所と同じなんて、縁を感じますね。

※今月のクイズの答えは、広報おおず12月号に掲載します。

【今月のクイズ】

お成り行列で復活した道楽とは歩きながら何をする事でしょうか。

- ① 蹴鞠
- ② 雅楽演奏
- ③ 短歌を詠む

